第5期 国分寺市公民館運営審議会 第8回定例会

日 時 令和6年5月24日（金）午後2時～午後4時

場 所 本多公民館 講座室

出席者

■委 員 田中委員長・鈴木副委員長・松田委員・稲津委員・川上委員・江渕委員
坂本委員・辻委員・有馬委員

■職 員 本多公民館課長兼本多公民館長・渡辺本多公民館事業係長・櫻井恋ヶ窪
公民館長・保谷光公民館長・久保もとまち公民館長・鎌田並木公民館長
鈴木本多公民館職員

事務局：本日は委員11人中9人の委員が出席です。欠席は矢島委員と笹井委員です。委員の過半数が出席となりますので、本日の会は成立いたします。よろしくお願いいたします。

田中委員長：それではただいまから第8回国分寺市公民館運営審議会を開催いたします。今日はかなり暑い日になりまして、本当に暑い日にお集まりいただきありがとうございます。それから昨日、教育委員の方々との意見交換、参加した方お疲れさまでした。連日ですけれどもよろしくお願いいたします。それでは今日もよろしくお願いいたしますと思います。

1 連絡事項

(1) 配付資料確認

田中委員長：初めに1の連絡事項から、事務局にご説明をいただきます。よろしくお願いいたします。

事務局：配布資料の確認をさせていただきます。まずは本日の次第になりまして、続いて資料の8-1で定例会の議事録になります。8-2で公民館運営審議会と公共施設マネジメント課意見の交換（要点記録）になります。資料8-3で、諮問になります。資料の8-4で、教育ビジョンの施策の方向性のシートと、8-5で、第2次国分寺市教育ビジョンの抜粋になります。そのほかに「けやきの樹」の6月15日号と、本多公民館運営サポート会議だより、次第には載っていませんが、光公民館運営サポート会議だよりになります。ご確認をお願いします。

田中委員長：何か不足は、よろしいですか。今、サポート会議だよりを改めて拝見しますと、色がついているのが分かりやすく、パッと目についたのですけれども、10の体系は、やっぱりすごいですよね。これは公民館ならではのかなと思います。複合施設にいても、やっぱり公民館は単なる貸館ではなくて、他施設と一緒にあって、総合的に部屋がたくさん増えて、利用がしやすいということだけではなくて、こういう主催事業が公民館の非常に重要なポイントで、また、そういう主催事業を支えるのが市民と職員のコミュニケーション

だと思っております。そういった中からいろいろ次のアイデアも出てくるし、そういうコミュニケーションが複合施設になってから、さらに発展するようにならないといけないなど、今、改めて思いました。

(2) 第7回定例会議事録確認について

田中委員長：それでは続きまして連絡事項の(2)第7回定例会議事録の確認ということで、事務局からお願いします。

事務局：資料8-1、資料番号が抜けてしまっていて申し訳ございません。次第の次から始まっている定例会の議事録になっております。こちらご確認していただきまして、修正がありましたら6月7日金曜日までに事務局のほうへお願いしたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

田中委員長：それでは6月7日までに何かありましたらお願いします。この話題が今出たので確認なのですけれども、毎回毎回これを確認して、議事録が確定してきているわけで、私は全部ホームページに載っていると思ったら、この間、実は載っていないということを知らされて、改めて見たら本当にはないんです。今、この時点、最新時点は見ていないのですけれども、私が見た範囲では前期ですね。前の期の第2回まで載っていて、3回目は載っていないのです。それで課長にも確認したのですけれども、ありえないかなと思ったのですが、どうしてかと、簡単にご説明ください。

事務局：特別な理由というのはないのですけれども、随時載せるということには間違いなくて、今まさに3回目を載せようとしているところではありますけれども、少し滞ってしまったというのは申し訳ないことではあるのですけれども、今年度中に追いついて、今までの全て載せていきたいと思っております。

田中委員長：とにかく早めをお願いします。

委員：今年度中っていつまでの話。

事務局：今年度、6年度。

委員：来年の3月までには追いつく。

事務局：はい。追いつきます。

委員：そのスケジュール感は、そんなものなのですか。

田中委員長：いえ、議事録自体は確定していますよね。だから掲載するのはすぐできます。

事務局：最終確認をして、随時載せていくべきものではあるのですけれども、諸事情により遅れておりました、速やかに載せていきますので、少々お待ちください。

田中委員長：お願いします。

報告事項

(1) 令和6年国分寺市教育委員会第3回定例会について

田中委員長：それでは続きまして、2番目の報告事項です。(1) 令和6年国分寺市教育委員会第3回定例会について、報告をお願いします。

事務局：令和6年の国分寺市教育委員会第3回の定例会は令和6年3月21日の木曜日に開催されております。公民館課の案件はございませんでしたので、その旨のご報告とはなりますけれども、他課からの案件の中で、いろいろと議案は出ておりましたけれども、その中で夏季休業日の期間を改正するための規則改正というのがありまして、こちらは夏休みの期間が令和5年では7月21日から8月24日までだったのですけれども、こちらが令和6年度は7月21日から8月31日と改正されているという内容がございましたので、ひとつご報告させていただきます。以上です。

田中委員長：ありがとうございます。何かご質問などありますか。よろしいですか。

協議事項

(1) 恋ヶ窪公民館の移転について

田中委員長：それでは本題である協議事項に行きます。まず(1) 恋ヶ窪公民館の移転についてということで、これまでいろいろと議論し、また鈴木副委員長と委員1名と私とで、公共施設マネジメント課と討論して、それからワークショップにお越しいただいたということで、ずっとこう来たわけですけれども、昨日も教育委員とのお話し合いの中で、その話題が中心になりました。そういう経緯を経てきたわけですが、事務局のほうから、移転について、ご説明をお願いします。

事務局：移転についてということなのですが、前回の公運審のときに、また公共施設マネジメント課と意見交換するという話になっていたと思いますけれども、意見交換のほうは5月9日に田中委員長、鈴木副委員長、委員1人と公共施設マネジメント課の課長、係長、主任と、公民館課では課長と私と恋ヶ窪公民館長で意見交換をしまりました。そのときの要点の記録ということで、資料8-2でつけさせていただきます。話し合いの中でなかなか難しい部分もあるのですが、こちらとしても公共施設マネジメント課のほうに真意を伝えながら、またいろいろお話をしながら伝えていくことになっておりますので、そこら辺も意見交換の要点記録を見て、ご確認をいただければと思います。事務局からは以上になります。

田中委員長：ありがとうございます。

鈴木副委員長：5月9日の公マネとの話し合いのことで、一番気になっていること、そのことから話してもいいですか。

田中委員長：この資料の見方を説明してもらって。まず大きな字のところ、それぞれの発言内容ということでよろしいですか。

事務局：大きな字のところそれぞれの発言内容で、四角の中が公運審の皆様に出していただいた意見書の中から、3の部分のところを大きく取り上げている

のですけれども、そこを中心に話し合いをしていますので、その意見書の部分を抜粋したものになっております。

田中委員長：分かりました。それぞれ太字が意見のやり取りで、点々はその中から、我々の意見書、該当するところを抜粋していただいた。そういうことですね。では、早速、副委員長の方から。

鈴木副委員長：資料8-2の2ページから3ページにかけてなのですが、『恋ヶ窪公民館に相当する範囲の明示』についても、これまでの公民館関係者のアイデンティティとさらなる活躍に必要である（施設のどこかに「恋ヶ窪公民館」という固有名詞が入るべきと考える）」というところなのですが、公共施設マネジメント課のコメントで、「館内のフロアマップに色分け等を行うこと、公民館と記載することは必要がある」と考える。「公民館と」というふうに言われているのですね。「恋ヶ窪公民館と」と言っていないのですよね。それで、次ののですが、「ただし、利用者が混乱するような表示は避けていきたい」。利用者が混乱するような表示というのは、ちょっとずっと考えているのですが、どういうことなのだろう。ちょっとイメージできないでいたのですが、この辺がネックだなと思っていますから、今後の話し合いとか意見交換とか、それから交渉の段階で、この部分はちょっと腰を据えてやらなくてはいけないのかなと思います。以上です。

田中委員長：ありがとうございます。それでは今日は、ここに少し時間を使って情報共有をするというのが中心ですね。この後、諮問の話が出てきますけれども、諮問答申の話、これは公共施設の話になるということで、まずはここで我々が出した意見書に基づいて、この間ここでも何を聞けばいいのかというのを確認して、5月9日に委員長、副委員長と委員1人との3人で公共施設マネジメント課と会ったわけですね。そこでのやり取りが今、文字に起こしていただいている。ここの結果をまず共有したいと思います。では、今鈴木副委員長が2ページから3ページにかけてのことをおっしゃいましたが、その前に順序を追ってまず1番目ですね。我々がかなり長い文書で意見書を出しましたが、第1番目には、そもそもこの公共施設というのは何が求められるのか。それが1点目と、2点目は恋ヶ窪公民館が今どういう機能を果たしているか、それが2点目。3点目に1点目、2点目を踏まえて、どういう複合施設であるべきか。それが3点目ですね。だから主に大事なものは3点目なので、3点目について、公共施設マネジメント課とやり取りを主にしました。それで、まず1ページを見ていただくと、四角の点々の箱の中の(1)が遡って振り返ると、あれは2月の定例会を並木公民館でしたか、畑が周りがある、とても自然豊かな公民館で話をしたときに、委員の皆様から意見をたくさん伺って、それをもとに私のほうで意見書の案をつくって。それを事務局からまた皆さんに配信していただいて、さらに意見があれば加えていただいてということで、我々の公運審の意見書を作成しました。その

意見書を教育長に提出したのが2月26日ですね。ですので、ここで会議をして、意見書の内容を考え、その結果に基づく意見書をつくって、教育長にお会いいただいて、意見書を説明した。これが2月26日です。そこは教育長も賛同していただき、自分も同じ考えだということをお願いいたしました。それがまず1段階ですね。そういうことなので、我々としてはその次に、3月6日に3人で、公共施設マネジメント課とコンサルタントも同席していましたが、3月6日に、教育長に提案したものと同じものを、そこで公共施設マネジメント課に対して意見を申し述べました。それで、向こうとはその場では割といい雰囲気、共通点があるなど思いながら終わったのですが、その後、第2回目のワークショップを開いて、行ったところ、我々が3月6日に言った意見がほとんどゼロという状態でしか反映されていない。要は、何もないというように感じられました。鈴木副委員長、そうですよね。

鈴木副委員長：はい。

田中委員長：我々言った範囲では全然考慮してもらっていない。委員からもご指摘ありましたけれども、そもそもコンサルタントが現地に行っていないではないか。お話もありました。そういうことで5月9日に、この間の公運審の後、5月9日に公共施設マネジメント課と話し合いをしたということですね。そこでの話し合いの議事録が、この今、資料8-2になります。公運審の意見の反映についてということで、今お話しした3月6日に、公共施設マネジメント課に対して、我々が意見をいろいろ言ったけれども、どうも反映されていないように思う。なので、どういうふうに反映されているのかということを確認したということです。それとともに、とりわけ我々がつくった意見書の3の①、これは自由にコミュニケーションできるサロン、あるいはロビー的な空間が必要だと。これが第1番目に出した意見ですけれども、それが一体どういう形でプランに反映されるのかということを確認したいということです。このコミュニケーションできるサロンは公民館機能が今後複合施設に入って、さらにその機能が維持・向上し、従来の公民館利用者でない方々も一緒に参加してもらいながら、地域活性化に貢献するためのとても重要な形態なのだということをお話ししながら、向こうの回答をいただいたと。そうした結果、2ページの上から3行目、公共施設マネジメント課とありますけれど、その回答は、今後は教育委員会と市長部局で調整して意見を反映していくことになるということで、公運審から話聞きました。あとは要するに行政内での教育委員会、あるいは教育委員会事務局と、市長部局とでやりますというような回答でした。あらかじめ説明、課長にこのあたり、どういうふうに進むか、補足をいただけますか。

事務局：2ページのところですか。

田中委員長：2ページの上です。我々が出した意見は今後教育委員会、あるいは公民館

課とそれから市長部局とで調整しますというふうな回答あったので、調整がどういうふうに進んでいるのか、あるいはこれからなのか、それを報告していただけますか。

事務局：公運審の皆様の意見書については、まず2月26日付で書類を提出いただきまして、と同時に教育長との懇談にこの資料を使わせていただいております。その席には正副委員長と委員1人と私と教育長と教育部長と一緒に、その意見書について、意見交換させてもらいましたけれども、概ね教育長のほうからはいい意見ではないかということだったとともに、この意見を公共施設マネジメント課と共有したらどうですかというようなご助言がありましたので、同日その日の日付で文章を収受いたしまして、公共施設マネジメント課に供覧しております。その後3月6日にこの資料をもって、団体ヒアリングですね。正式に綜企画さんも同席していただいて、団体ヒアリングとしてお受けしております。そのときもこの意見書をもとに、この趣旨をお伝えしたというところなんです。公共施設マネジメント課につきましてはそれを受けて、今度の6月議会に皆様のご意見を報告するという流れになっているところなんです。このフリースペースの考え方については私たちとしてはとても重要な要素ですので、再三この公共施設マネジメント課と意見交換をしております。今現在基本計画、プランが平面図の手前の、機能のプランが、何プランかワークショップで1回目、2回目と出されておりますけれども、それをもとに市民の方の意見も反映されて、1階のスペースにフリースペースが予定されているという状態になっていますので、この意見書についての反映という面では、1階のフリースペースに私たちの公民館の機能が入っていける要素が入ってきたなというところなんです。

田中委員長：それで、今日の事前の打合せでも言いましたけれども、今フリースペースとしてつくってしまって、その後パーティション、壁か何か移動式のものをつくって、囲ってというのではなくて、いわゆる部屋みたいな形でというのが我々の意見書のポイントだと思うのですけれども、ここに今パーティションという言葉が書いてあるのは誰の発言ですか。私が言ったのかな。我々が、要するにフリースペースはフリースペースでよくて、出来上がってからパーティションをつくって、椅子置いてというふうには言っていないと思うのですけれど、そういうふうには言っていますか。ただ、そこで、こうやってパーティションと改めて文字になると、今のフリースペースはフリースペースでいいんだというようなことを承認したような形になりますので、この辺が今、私も見ながら、変だなと感じているところなんですけれど。

事務局：これから運用についてまた、さらに検討をしていく段階に入っていますので、今は関係課に今現在の施設でどのような設備、収納スペースとか備品とかですね。どんなものを使っていて、それを新しい施設でどのように入れていくかというような検討に入っているところではありますので、具体的

なこのような意見の反映というのは、今後もお伝えしていけるという余地を残しているかと思います。

田中委員長：分かりました。それでそういうサロンみたいなものが必要なのだということと言ったところ、公マネのほうから、具体的な使い方はこれから運用の話をしていくので、というような回答だったのですけれども、ここはだから結局、今度の議会で今のプラン3が出てしまって、特に部屋にはならなくて、フリースペースそのままというのが出るので、いかどうかというのをここで1回意見としては、皆さんの意見を聞いておいたほうがいいかなと今、思いました。ここのやり取りばかりでよく分からないかもしれませんが、今ここの2ページの下のほうの枠の上のところまでなのですね。ちょっと私もその場でよく分かっていなかったのですけれども、今こうやって改めて見ると、今の公マネのほうの考え方は、基本的にはフリースペースと呼んでいるものはフリースペースのまま建物をつくる。その上で我々が言っているサロンというのは、何か移動式のパーティションみたいなもので区切って、範囲を狭くしたり広くしたりできるようにして、その中に椅子でも置いて交流できるようにするのだというのが、恐らく向こうが考えてくることでしょうね。こちらが意見をつくったときには、そういうことではなくて、完全に仕切られた部屋にするかどうかは別にしても、ある程度固定的なちゃんとした囲まれたところで、ここがサロン、あるいはロビーなのだ決まっていて、そこに資料類があったりして、みんなが交流できる場所。それは建物ができてから、そういうのをみんなで考えてつくるのではなくて、あらかじめ設計しておいて、ある程度この範囲はサロンにしましょうというのが設計上も決められているというようなのを前提にして、我々は意見書を出したと思っているのです。そのあたり、ちょっと今ここで区切って、委員の皆様としてはどうでしょうか。

委員：昨日、教育委員会の方とお話ししましたよね。お1人の方がサロンというイメージがよく分からないという、そう言われて、それで私もちらっと、「ああ、なるほどな」とちょっと思ったことがあったのですね。それは私、羽村のゆとろぎという生涯学習センター、すごく大きいところですよ。あそこに10年以上通って、毎週通ってなんですけれど、あそこはものすごくフリースペースが非常に大きくて、10人ぐらいの大きな円卓があって、それとさらに4人掛けのものが3つか4つぐらいあって、あとはもうそれぐらいバーツと広いのです。あとはテーブル、ものもあるのです。まるでオブジェのような大きな円卓なのなんですけれど、一番初めに見たときには、「わあ、すごくカッコいいな」と思って、私もちょっと座ったりしたのですけれども、ずっと毎週毎週行っていると、そこを活用している人がほとんどいないのですよね。それで、また私とか2、3人行っても、ほかに一緒に来るかという来ないのですよね。やっぱり誰か2、3人そこがもう、誰かがいると遠慮してしま

うみたいなのです。要するにあの人たちの会話を聞いては悪いのではないかしらとか、またはこちらのほうも、あの人に多分我々の話って筒抜けだよねという、何かそういうのがあるみたいで。ですから要するに、オブジェとしてはあるのですけれども、4人掛けとか、そちらのほうが、一番使用頻度が高くて、もちろんワーツと集まる。それこそ五月みどりだとか、ああいう人が来るようなそういう大ホールもあるので、そういうときにはワーツと同じような感じの人たちがワーツと集まるというときには埋まっていたけれど、普段はあまりそういう、まるでオブジェとして、スペースがあるからいいのでしょうけれども、ちょっと私も、フリースペースというのはすごく私も大賛成なのですが、それをどういうふうにするかというのはなかなか難しいな。要するに地方だと、もうつながりが出来上がっているから、「ああ、何々さん」とかという感じで行けますけれど、都会、みんな知らない人ですよ。「何しているの」なんて言えないような雰囲気ですよ。羽村、東京の中ではちょっと田舎かもしれませんが、だからそういう意味で、これはなかなか難しい問題だなというのが、ちらっと、要するに円卓、ドンと置いたとしても、誰も座らなかつたり何かするという可能性も、もしかしたらあるのではないかなということをちらっと思いました。今ちょっとこれと外れて、言いたいことを言っていていいでしょうかね。1つ、昨日私も考えたことなのですが、よくスタッフと市民の連絡、コミュニケーションよくするとか、いろいろそういう文言がいっぱいありましたよね。要するに、公民館のスタッフと市民の人がよく交流できるようにとか、そういうこと、いっぱい書いていましたね。私は今、もとまち公民館なのですが、もとまち公民館とてもこじんまりして、とてもフレンドリー、館長さんもフレンドリーでね、私なんて本当に恵まれているなと思っているのですが、もとまち公民館の中で唯一残念なところは事務局が引っ込んでいるのですよね。ですから、公民館の人たちのスタッフの顔が見えないのですよ。詩吟、もう5、6年やっているのですが、私以外の人の会員の人たちは「館長さんって誰」とか、「あの男の人なのね」とか、誰も知らない。ほぼ毎週通っているのに。そこがすごくあれで、今度新しい恋ヶ窪、そういうときにはぜひとも顔の見える、スタッフの顔の見える、そういうところ、顔出しはしてもらいたい。恋ヶ窪、私も何回目かに行きましたよね。2階上がって行ってすぐ左にバーツとあって、仕事すごくしている人たちはしようがないけれど、3、4人ぐらいパツと目が合うのですよね。すごく私ホツとしたのですよね。ですから、そういうところで、ぜひ。設計まだですよ。ぜひ公民館のスタッフの人たちが顔出ししてもらいたいなと思って、まだ間に合うかなと思いつつ、それを思っています。それだけです、2点です。

田中委員長：ありがとうございます。とても大事な視点です。後半の職員と市民の交流というところの、ハードの条件がそれを促すようになっていないと難しいと

ということですね。

委員：そうですね。

田中委員長：恋ヶ窪はどうですか、そういう意味で。

鈴木委員長：2階にあるというのは1つネックですけれど、大きなネックですが、行く
とすぐ顔を合わせられる。それが100%。

委員：もとまちね、ちょっと残念なんですよね。

田中委員長：分かりました。ポイントです。設計が今度、議会に出ますよね、フロアの
イメージが。あれが1階に、事務局ごとに職員のスペースが仕切られていま
す、あれの何か、ふらっと市民が行ったときの職員の見え方というか、奥ま
ってしまうのではなくて、職員が見えているという、その辺も設計の仕方は
まだこれから全部いろいろ言えますか。

事務局：言えます。

田中委員長：ぜひ、今日委員会で出た1つの意見として、重要なポイントだと思うので、
その辺はちょっと位置づけとしてください。もう1つ今の、サロンになっ
ても使わないという。多分いろいろな条件があると思うのですけれども、公民
館ではないのですけれども、私が武蔵野市に住んでいて、武蔵野市には残念
ながら公民館がないのですけれども、コミュニティセンターが16個あって、
それぞれあるのですけれども、小学校12校なので小学校より多いぐらいある
のですね。ロビーみたいなのがあって、結構みんな平気でわあわあ集まって、
勝手なことを言い合っているのですよね。それで、職員がいないのです。全
部市民運営で。職員ではなくて市民なのです。有償ボランティア。その人が
割とロビーに突き出ているのです。だから結構平気でコミュニケーションで
できるという感じで、同じ市民なので、もともと壁は低いというのはあるので
しょうけれども。だから都会であっても、何かそういう、位置づけ方によっ
て、ふらっと来て雑談するというようなことが可能だと思うのですね。羽村、
私も以前本多公民館の公運審で見学に行ったのです。だからイメージが残っ
ているのですけれど、多分その辺の設計の仕方とかあると思うのですけれど
も、でも今の意見、とても大事なので、フリースペースは人々がふらっと来
て交流しやすい状況で、建物をつくるときに何かできることはできるだけや
って、その後、運用上でできることもさらに。こういうことが大切で、サロ
ンを設けたから人が来るかという、そんな単純なものではないというのが
今の、貴重なご意見だと思います。ありがとうございました。

委員：恐らく行政の立場から、市の行政側の立場から言うと、恋ヶ窪公民館だけ
でなくて、福祉センターとか生きがいセンターですね。武道場、諸々がドン
と集まってあそこに、複合施設にしましょうということだから、恐らくは合
理化したいというのが圧倒的にあるのかなという気がするのですよね。です
から多分フリースペースといっても、何者かがドンと集まって、そこをみん
なで使えるようにとは言うのですけれども、というアイデアじゃないかなと

思うのですけれども、まさに今おっしゃったとおり、みんなで使ってくださいと言うけれども、今まで使っていた恋ヶ窪の、例えばあの部屋この部屋のサークルの活動はどこでやったらいいのですかという。まさにその位置づけというか、ポジショニングがそこまでは恐らく今、できていないのだろうなど。絵が先にできて、フリースペース、いいね、イメージ的に。あるいはおっしゃったように見てくれいいね。だけど現状の活動はそこで本当に、少なくとも今の状況のまま、あるいは今以上にやりやすく、あるいは楽しくできるのでしょうか、というところが一番のポイントじゃないかなと思うのですよね。だから、先ほどの公民館の受付の方の顔がとかもあると思うのですけれども、何となく受付はドンと1つにして、人数も絞ってできたらねというイメージを、市のほうではお持ちではないかなと思うのですけれども、その折り合いだと思います。やっぱり現状の活動を具体的に見ていただいて、理解していただいて、それをはめ込んでいかないと、先にきれいな絵ができて、果たしてそれが使い勝手がいいかどうかというのはまた別問題かなど。ちょっと印象的なお話で申し訳ないのですけれども、そういう気がしています。

田中委員長：今の、大事なポイントだと思ったのですけれども、職員の問題ですけれども、複合施設になったら指定管理に出るのですけれども、指定管理者。というふうに聞いています。

事務局：いろいろな課が入る施設ではあるのですけれども、庁舎管理として、一括管理というのは、もう庁舎内で、一括で管理していこうという方針になっております。

田中委員長：そうすると今の恋ヶ窪の館長さんとか職員の方がそのまま入るのか、あるいは指定管理者の方がそれに代わる、役割を果たすのか。その辺はどうなのですか。

事務局：運営についてはまだまだこれからですので、決定はしていません。

田中委員長：それ、大事なポイントですね。分かりました。この後、諮問の話になってしまうので、考えたいのです。ありがとうございます。あとはいかがですか。今のいろいろと話が出てきましたけれども、2ページの途中のところまでですね。サロンの問題。コミュニケーションできるサロン的な空間の問題について、今、委員からコメントがあったのと、別の委員からもありましたけれど、ほかに。

委員：その前の段階で、2ページの上から3行目に公共施設マネジメント課のコメントで、「今後は教育委員会（公民館）と市長部局（公マネ）で調整し意見を反映していくことになる。」と書いてあるのですけれども、この教育委員会（公民館）というのは1ページ目に入っている公民館課の事務局、渡辺係長、櫻井館長が入っていると考えてよろしいのですか。

事務局：具体的には先ほど申し上げた3月6日の団体ヒアリングとしてお認めいた

だいた意見書を通しての団体ヒアリングを、議会で報告していくという意味合いになります。

委員：公民館運営審議会のほうは、この間の意見書に全て書いてあるので、今後はそれで考えますよというふうに考えると思うのですが、3行目の公共施設マネジメント課が言っている「今後は」というのは、議会に上程することも含めて、それ以降のことも言っているわけではないのですか。

事務局：ここで私たちの意見をお伝えして終わりではなくて、今後も必要に応じて意見を伺いますというのは言われています。

委員：そのときに、「教育委員会」というふうに書いているのですが、ここで打合せしているときに、教育委員会の人と打合せしているわけではなくて、公民館課の課長、係長、恋ヶ窪公民館長が教育委員会絡みでは来ているわけですね。何でこういう書き方をしているのかなというのがちょっと。上位概念で書いているからではないですか。

田中委員長：市の組織機構からいけば、教育委員会と市長部局があって、具体的には担当としては公共施設マネジメント課と公民館課ということですよ。

委員：そう理解してよろしいのですか。

事務局：はい。内部でいろいろな会議が既に取り組みして、係長クラスの会議、課長クラスの会議、それ以上の会議というのも含めて、教育委員会の意見をそれぞれ反映していく場がありますよということです。

委員：私が危惧しているのは、公運審のほうは意見書をもらったから、もうそれで具体的な打合せを公運審とはやりませんよ。公民館課のほうも今日伺ったから聞きませんよ。あとは教育委員会と公共施設マネジメント課でやりですよ、みたいな、そういうことではないのですか。

事務局：そういうことではありません。

委員：分かりました。安心しました。

鈴木副委員長：そのことも含めてなのですが、こういうふうに整理されて、記録が整理されてしまうと、理解できないことが多々出てきますので、従来どおり逐語で記録を残していただきたいと思うのです。逐語記録。今までのこういうコア会議のも全部、誰がどのように話したということがそのまま記録されて出ていましたから、そのようにしていただくと誤解を生まないし、妙な憶測をしないでいいと思うのですね。今回に限って、どうしてこのような形になったのかなど。いろいろと事情はあるのでしょうけれども。

事務局：今回につきましては、公共施設マネジメント課と何回もやり取りをして、今までいろいろな団体ヒアリングをして、それが資料で表に出ていますので、それに類したものというようなイメージで、公共施設マネジメント課と調整する必要があるあって、要約みたいになっております。

田中委員長：鈴木副委員長から見て、この形だと、どの辺がちゃんとあらわれていないとか、何かありますか。

鈴木副委員長：基本的にパーティションとか、具体的な話になりますけれども、机や椅子などを設置しと、云々と、これ誰が言ったのか私も覚えてないのですが、そういうことよりも、物がどうあるかよりも、さっき委員が言われたように、空間の使い方としてスタッフの顔が見えるということが大事だから、それが実現するようなサロンですよ。空間の使い方。そういうことで、うまく言えませんけれども。

田中委員長：ですから、顔が見える云々はその前にも出ています。

鈴木副委員長：出ていません。だから今後。

田中委員長：それは今日の意見として伺って。私を感じたのは、これだけだと今のフリースペースそのままです。この後、パーティションで区切って椅子を置いてくださいというふうに言っているように思えるけれど、その場では決してそうは言っていないで、ちゃんとサロン空間を設計時からきちんとつくってくださいと言っているんです。だからちょっとその辺は一定の趣旨がずれて伝わったということです。それでは2ページの四角枠の上までのところ、サロンの部分についてどうですか。

委員：スペースの作り方って、公民館とかそういう場所だけではなくて、私は学校の出身ですけれども、建物の大規模というか、全面的な改築にも関わったことがあって、私立でしたので、上からのお仕着せではない新しい校舎をつくるということで、中心的な仕事をしたのですけれども、やっぱりいろいろな当然、スペースの作り方でも考え方が当然のように出てきて、なかなか収れんしていかないということがありました。私が公民館としてこうあってほしいという、それすらなかなか収れんしていくのは難しいと思うのですけれども、このフリースペースって、公民館だけではなくて、図書館やほかの施設、一緒にできる。そういう方たちも、もちろん使うということになると思うので、そういう利用者たちがイメージする、あるいはその主体である職員の方でもいろいろな立場の方もいらっしゃるかもしれませんが、そういう方たちがこのフリースペースをどういうふうイメージしているのかというのを収れんというか、意見交換を少なくともしておかないと、公民館の意見だけでこの場所ができていくわけではないので、そういうすり合わせって、これまでやったことはあるのですか。

田中委員長：それは我々、あまりよく分かりませんが、公運審と例えば図書館運営協議会とが協議したということはありません。ただワークショップの中で、それぞれの関係者が出て行って、そこで情報交換ということがあります。

委員：最終的にどういうふう収れんさせていく予定。

事務局：フリースペースについてはワークショップで4回ぐらいずつですか。行われている中で、テーマで挙げられていましたので、多くの意見が寄せられていますので、それを公共施設マネジメント課がまとめて、よりよい意見集約ということで形にしていくという流れかと思います。

委員：キャッチボールは今後もあるんですかね。

事務局：一通りワークショップ2回終わりました、次は議会の報告が、今までの報告があって、あとはまた市民の皆様へ向けての説明会が予定されております。そして基本設計に入っていく中で、また必要に応じて意見をお伝えすることは可能かと思うのですけれども。

田中委員長：辻委員がおっしゃるように、今公運審と図書館運営協議会とあるいは福祉センター、そういう市民の協議会みたいなのがあれば、そこと、その団体同士、当然やるべきです。たしか途中でそういう意見も我々のほうから出ていたと思うのですけれども、今のところそれが実現はしていない。

事務局：今のところ、関係団体いろいろな団体ヒアリングをしておりますので、それをもとにいかに建物に反映していくかという、今、過程にあるかと思えます。

田中委員長：今後それが必要だということであれば、要求していく必要があると思うのですけれども。

鈴木副委員長：かなり早い時期に、一番最初にここで公マネが説明に来られたときに、全ての団体が参加して話し合いをしたり、交流したりして、できるような場を設けろということをお私達のほうから要求したんですよ。それは団体が一堂に会してというのではなくて、結局ワークショップという形に変えられた。変えられたというのは変ですけども、それで実現、やったというふうに解釈しているのかもしれないのですけれどもね。それとはまた別の話でやるべきだと、むしろ要請していったほうがいいなと思います。

田中委員長：今からでもやったほうがいいですか。

鈴木副委員長：早いうちにやったほうがいいのではないですか。

田中委員長：そこを考えてみたらどうですか。主管課とも調整が必要でしょう。

鈴木副委員長：なぜかという、発言する回数が多くて申し訳ないです。委員のおっしゃるように、なぜ公民館だけがそこを要求するのと、力説するの。公民館が独占するわけではないのだけれども、なぜ公民館が1階になくはないといけないということを理解されている方は、公民館利用者しかないということ、昨日の教育委員会の方もおっしゃってましたよね。公民館が2階にいったら駄目なのだと、事務局が。なぜ駄目なのか。そういう話。だから1階に公民館関連の、人が見える、あるだけで、空間の利用の仕方がソフト面でも違ってくる。総合窓口がいくらあったって、公民館そのものの事務所とかの上にあったのでは違うのだ、それとは全然違うのだというところの理解は、あの方には分からないから、と思うのですよね。そういう意味でも必要だろうと思います。

田中委員長：ちょっと今決めるのは難しいと思うのですが、そういう関連団体同士の意見交換も必要ではないかということで、今ここでは意見が出たという形にさせていただいてよろしいですか。また調整したり、我々また出たりすると、

皆さんも時間を使って出ていかないといけないので、そのあたり、どこまで可能かというのがありますので。どうですか、皆さん。例えば図書館運営協議会と一緒に腹を割って話したいとかいうようなことを思いますか。もし、ここで多くの方が思うのであれば、我々の意見として公民館課から話を伝えたいと思います。

委員：ワークショップだと、何となくさっきおっしゃったように、ぐちゃっと混ぜて、直接例えば福祉センターを使われている方の意見を聞く場ではなかったですね。だから例えばですけども、福祉センターの方、それからいきがセンターの方、恋ヶ窪公民館の方が代表でも並ばれて、お互いにどういうふうに使っていて、どういうふうにしたいと思っているというようなことを話し合う場が1回でも2回でもあれば、もっと現実的な話ができると思うんです。と私は思う。

鈴木副委員長：私も。

田中委員長：そうですね。ありがとうございます。では、日程の問題とかいろいろあると思いますけれども、公運審としてはとにかくそういう当事者市民、使っている市民が一同に集まって意見交換し、使い方の調整とかいろいろある。運用レベルまで含めて、当然情報交換していかなければいけないと思うので、そういう場をつくっていく必要があるというふうに、公運審としては考えるということでしょうか。ありがとうございます。それでは2ページの四角の上まで、サロンの空間についてはこれでよろしいですか。時間かかって申し訳ありません。この後は割とスツといくと思うのですけれども、2ページの下、先ほど鈴木副委員長が言われた、公民館と記載するのではなくて、恋ヶ窪公民館と記載するということが必要だということも含め、幾つか、論点があるかもしれないので、何かありましたらお願いできますか。要は、我々が出した意見書の3の②ですね。恋ヶ窪公民館に相当する範囲を明示してほしいということについてですね。向こうの回答からは、館内のフロアマップに色分けして公民館と記載するということが必要だと考えているということでしたけれども、鈴木副委員長からは恋ヶ窪公民館と記載しなければいけないというようなコメントがありました。このあたりどうですか。

委員：私も記載すべきだと思います。ほかにも公民館があって、全部名前があるわけですから。ないというのはおかしいと思います。

田中委員長：ありがとうございます。

委員：この3ページ目の上なのですけれども、公マネの言っている利用者が混乱するような表示は避けていきたいって、これは具体的にはどういうことか、全く理解できないのですけれども、その場では何か質疑があったのですか。

田中委員長：いや、特にありません。これは要するに何か、一般的に当たり前のことを言っただけだと。

委員：どのように表示するかは公民館が協議していくという結論になってしまっ

ているのですけれども、これだけ関係者が集まっていた場ではできなくて、今後これ以外に、どなたを入れて協議しようとしているのですか。

鈴木副委員長：感情抜きで、客観的にお話しますと、こういう回答でした。名称については検討事項である。寝耳に水、これは事実ですから。そこで初めて聞いた。「どういうこと」と聞いたら、公共施設マネジメント課が考えることではない、名称については。それについては前ページにもありましたが、教育委員会、公民館課、教育委員と書いてある、と公民館課ですね。それが名称については検討することであると。そういうふうに言われたんです。だから、今まで検討するという話は一切ありませんでしたから、名称。当然、恋ヶ窪公民館そのままいくのだろうというふうに認識していたのです。皆さんもそうだろうと思います。それがここで、9日の段階で、早期に公共施設マネジメント課からそういうお言葉が出ましたので、これは一体どういうことなんだ。

委員：検討事項になったんですね。

鈴木副委員長：そういうことなのです。

委員：よく分からないのですけれども、公共施設マネジメント課が教育委員会と公民館課を使い分けているような気がするのですけれども、それは私の誤解ですか。

田中委員長：教育委員会というよりは、むしろ公民館課という表現のほうが。

委員：これ、公民館と協議していくとここに書いてある。この公民館は定義では、今後は教育委員会（公民館）と。この公民館、ですから読むとしたら、教育委員会と協議していくというふうに読めますよね。何か使い分けている気がしてしょうがないです。

鈴木副委員長：だから、公民館とではないです。表記の仕方が。どなたが表記されたか知りませんが、逐語録のほうがいいですよ。

田中委員長：ここ、略語を使っているのです、公民館課のところ、公民館と書いてあるのです。

委員：それが、文章からしたら、公民館課ではなくて、2ページ目の上から3行目の今後は教育委員会（公民館）としていますから、ここの公民館は教育委員会と読み替えるのだと思いますけれども。

田中委員長：課長に確認ですけれども、私の印象だと、公民館課を中心として、教育委員会で考えてくださいというようなことだったのではないかと思うのですけれども。

事務局：はい。そのとおりです。公民館課と言いました。

委員：であれば、ここは課と直してもらえるのですか。

事務局：そうですね。

委員：それと、あと鈴木副委員長の話では、公共施設マネジメント課が決めることではないということであれば、協議していくというのもおかしいですから、教育委員会と公民館課で決めてくださいみたいな。協議という言葉があると、

公共施設マネジメント課が関与していますよね。これ、日本語としておかしいと思うのですけれども。

田中委員長：その場合は、これは公民館中心に、教育委員会で考えてもらうことだと思います。公民館課と公共施設マネジメント課で協議していくと言ったり、多分、何か所かで違う表現だったと思うのです。

委員：いずれにしても、公民館課が主導権を握れるような書き方であれば安心です。

事務局：名称について、公共施設マネジメント課が決めるとは一切言っていないで、名称については、公民館課のほうで考えてほしいというようなニュアンスで、聞きました。

委員：細かいことを言うようなのですけれども、1行目の館内のフロアマップに色分け等をするということも、だって、フリースペースって、共有スペースなのでしょ。色分けできない。

田中委員長：フリースペースを上がると、2階の各部屋です。

委員：それはもう確定して、公民館の場所、それから福祉センターの場所、分けられるわけですか。

田中委員長：だから、要するにこれは公民館利用者だけが使える場所だということになるとよくないけれども、ただ、条例上ここは公民館、ここは福祉センターと、ちゃんと明確に分けるのです、制度上は。だからそういうことが、ちゃんとフロアマップに分かるようにしたいというのが。

委員：なるほど。色分けはできるということですね。

田中委員長：そうなのです。初めはそれが無いという、たしかそういうお話しでしたけど、この時点ではちゃんと分かるようにするとは言っていました。これについては、公民館の記載ではなくて恋ヶ窪公民館ということが重要なのだというようなことで、この協議会としては、そういうふうを考えているということでもよろしいでしょうか。ありがとうございます。それでは続きまして(3)ですね。利用者の成果発表スペースの確保。これ、恋ヶ窪公民館でも、この間見学したもとまちでも、やっぱり成果の発表という、展示がかなり地域への波及効果から見て大きいというのを感じてきたので、そういう提案をしたわけですが、これについては公共施設マネジメント課としては、フリースペースで対応していくと。運用の中で考える。これは当然かもしれないと思うのです。壁ができて、その壁に成果発表が貼れるとかいうことだと思ってしまうのですけれども、ただ、フリースペースで対応はいいのですけれども、初めからそういう成果発表を貼れるとか、展示できるとかいう前提の壁とか、あるいは棚になっていないと、壁に芸術作品を初めから展示されてしまうと、そこには成果発表ができなくなりますので、そのあたりはできてしまったからの運用というよりは、できる前からそれを前提に設計してもらうということが重要かと思えます。これについて、何か確認されたいことはあ

りますか。鈴木副委員長いいですか。それでは特になければ次にいきます。2番のところですね。既存施設の機能をふまえた設計についてということで、これが坂本委員からこの間出ていた問題提起ですね。今回は、既存施設の複合化なので、現恋ヶ窪公民館の現状評価をどのように行った上でプランを作成しているかということで、聞いたということですね。公民館としては、これ公民館課から、計画がスタートした当初から、各課から意見聴取を行っていて、恋ヶ窪公民館の館長からも意見を提出してもらっていると。現在進行形で引き続き行っていると。公運審、これは私から言ったのだと思いますけれども、ワークショップのときに、コンサルに聞いたら、現場を見ていないと言っていた。これは委員から出た。どうなっているのかというのを確認したのですけれども、これについてはワークショップのファシリテーターは人数も必要なので、他部署から来ている人もいて、中にはそういう人がいたかも知れないが、担当者は公民館を見ているというようには答えていました。その場で、ワークショップにいた人は見ていないと言ったかもしれませんけれども、綜企画としては、会社としてはちゃんと見ているというふうには言っていました。そういうことであれば、設計業者から見た設計の提案というのはあるのかということを確認したところ、各課からの意見、ワークショップでの意見、団体からの意見を当課で取りまとめて、プランニングすることになっている。意見や要望をうまく混ぜ合わせながら合理化、効率化を図っていくということが今進めているやり方なので、大きくプランが変わることはない。あまり質問に合致していないような気はしますけれども、これはどういうことでしたかね。今回は、入札方式だったと言っていましたっけ。ですよ。だからもともとコンサルからの提案を事前に聞いているわけではなくて、入札で安いところに依頼したということですね。

事務局：入札手法については、即答できないのですけれども。

田中委員長：ただ、ここで我々が聞いたのは契約前の話ではなくて、契約してから仕事が始まったときにコンサルがちゃんと見ているのであれば、そこのコンサルからいろいろ提案があったなということと言ったのですけれども、あまり的を射た回答はなかったというふうに思ったのです。ただ、対話の中で何か出たとしても、各課からの意見とかワークショップの意見とか、いろいろ全部織り交ぜているから、結局のところコンサルから何か出たとしても、それもワン・オブ・ゼムになって、総合的に今プランを考えているというような意味かなというふうに理解をしました。これについては委員、何かありますか。

委員：会社として見えますとか、多分そういう言い方なのだと思うのですけれども、3つぐらいの案が出ていたではないですか。本当にザッと、ザックリの案だったのですけれども、ああいうのは例えば、恋ヶ窪公民館の職員の方に見ていただくとか、意見をもらうとか。というのも、職員の皆さんは日々の利用者の活動を御覧になっているわけですよ。それを見た上で、「このフロ

アマップは現実的ですか」というようなことを聞くのも1つかなと思ったのですが、あまりにも絵がきれいに出来上がってはいるのですが、
「これ、使えるの?」という感じが、やっぱり僕の第一印象ではあったので、
「現場行きましたか」という質問をしたような状況だったので、
というように思います。

田中委員長：そのあたりも、きめ細かいコミュニケーションがなかなかないのかもしれないですね。恋ヶ窪公民館としては、今、恋ヶ窪公民館長からちょっと、前館長に聞かなければ分からないかもしれませんが、相当何かあったのですよね。恋ヶ窪公民館の職員の方にヒアリングとかってというのは。

鈴木委員長：それよりも、さっき課長がおっしゃったのに、係長の方たちを含めて会議をして、その中で情報共有をされて。

事務局：かなり恋ヶ窪の情報は最初の段階からお伝えしていて、課題等、ハード面の課題等ですね。部屋数が少ないですとか、調理する部屋がないとか、様々なハード面の課題は最初に出しております。もちろん利用者の皆様の声も一緒にお届けしています。

委員：それを反映したものが、あのフロアマップの3つのあれですか。

事務局：フロアマップも含めて、基本の、最初に出てきた素案に、もう、その中に含まれております。

委員：ですから、ワークショップで配られたあの3つの案は、それを、意見を反映しているということですね。であれば、僕は全く考慮されていないと思いますけれども、個人的な意見ですけれども。あんなふうに広場みたいなつくり方になっていて。

事務局：基本的には、今ある施設をそのまま引っ越して、複合施設の中に面積を確保するということでは、そのままの面積は確保されていて、ほかの福祉センターも入ってくるので、福祉センターの調理の部屋であったり、広いスペースの部屋を一緒に使えるという面ではメリットはあるのかなとは思いますが、けれども、全体としての使い方については皆様の様々な意見で、いろいろな案が出されていますので、今まとめている途中ということになります。

田中委員長：職員の方から全部いろいろとヒアリングはしていただいているのですよね。

事務局：はい。

田中委員長：それでは今の問題はよろしいですかね。4ページの今、中ほどから上あたりまで終わりました。次、3番目ですね。複合相手の施設の法的根拠。それぞれどういう法律に基づいた施設なのか、もともとですね。福祉センターとか生きがいセンター。それについては、あらかじめ質問は出していたのですが、その場では回答がなくて、条例だけはコピーをもらいましたけれども、ただ、法律のほうの根拠はどうかというので、これ、たしか調べているということでしたよね。法令について。どういう法律に基づいて、今、福祉センターとか生きがいセンターがあるのか。あるいは法律に基づいている

のか、ないのかどうか。それは確認をしていくということでしたよね。

事務局：基本的に、建物を建てるためには基本の条例がつくられますので、その基本条例については示されたところではあったかと思うのですけれども。

田中委員長：それについて法令のほうも、たしかその場では明確な回答がなくて、担当課に確認して報告するというふうになりますので、またいずれ報告していただくということになります。では、我々が具体的に出した意見書に基づいては、こういうことでありました。4ページの最後から、最後まで少しやり取りがあるのですけれども、まず今回のワークショップを踏まえての意見が1つ。ゼロからアイデアを集めるというワークショップもあるが、今回は専門的な施設である公民館、図書館、福祉センター等が集まってできるので、図書館、公民館それぞれどういう施設かなど、最新の国の政策や制度、方向性について、基本的なことをレクチャーして、事前に知識の共有をしてからみんなの意見を聞くということが大事だと感じたということは申し上げました。時間の問題もあるから結構難しい面はあったと思いますけれども、ゼロから何も知らない人たちが集まって意見交換するのではなくて、共通の知識をちゃんと得た上で意見交換するというのが、こういう専門的な内容を含むワークショップの場合は重要なので、その辺は意見をしておきました。今後の課題という回答でした。それから公運審の意見が議会を通過していないから、ワークショップで公表されなかった。ここに公運審としての疑問があるということをお願いしました。公運審の意見は何になるのか、何を公運審の意見とするのか、それをどういう形で議会に出すのかという確認をしたところ、これまでも様々な意見を伺ってきた。どの部分を出すかは、公民館と協議し、これも公民館課ですね。公民館課と協議し、6月の議会に提出するという回答だったのですけれども、その後、我々が教育長に出した意見書ですね。その意見書を公共施設マネジメント課との話し合いでもベースにしていますので、あの意見書を我々のヒアリングの結果として、こちらとしては提出していただいたということです。ということになります。ただ、議会に出すのはそこから何かポイントを抽出して出すということですね。抽出するときに我々の意図がずれると問題だから、そこは注意してほしい。先ほど事前打合せで鈴木委員と2人で、課長に申し上げたところですよ。よろしくお願いします。

事務局：私どもも議会には出席いたしませんけれども、聞くことはできますので、資料等確認したいと思います。

委員：日付は決まっているのですか。

鈴木副委員長：14日金曜日の9時半。

田中委員長：6月14日、9時半からですね。傍聴できる方はお願いしたいと思います。

動画でも配信されるのですか。リアルタイムで。

鈴木副委員長：特別委員会はないですね。本会議だけです。

田中委員長：確認できる方は、ぜひよろしく申し上げます。それから次ですね。フリースペースの使い方、成果発表、公民館の名称を明示する、これらについては受け止めていただいたと判断してよいか。フリースペースのことで確認はしたのですけれども、ハードではなくソフトの部分になるという回答なのですよね。ですから、フリースペースは今のままというような回答です。協議をしながら運用の仕方を決めていきたいと。ただ、公運審としては、我々としてはハードのレベルで提案をしている。全て認めてもらいたいと言っているのではなくて、この場でのこのやり取りは受け止めていただいたかどうか。要するに、その場で意思決定しろと言っているのではなくて、我々ハードのレベルでフリースペースをきちんとやってくれということを行っているんだと。それをまずは理解して、受け止めたかということを確認しました。それはもちろんである。主旨、目的は同じ考えを持っている。今後、運用の場面で協議していく中でも検討する。これは市民全体の施設であり、市の考え方、庁内合意形成をとっていかなければならない。今回の要望は受け止め、それをかなえるべく調整をしていく必要があると思っているという回答があったということで、公運審は、それはそれで一応終わりです。最後やはり、太陽光パネルを設置するのか。新しい技術、新しいことなので情報収集をということでした。1つ抜けているのですけれども、私のほうから、前回出た外観ですね。外観についてもやっぱり魅力的にしてもらわないと、せっかく機能がいい機能でも、人が行きたくなるためには外観が魅力的だとかいうのが必要なので、そういう意見が公運審から出たので、それも伝えたいと、たしか私言いましたよね。ただ、外観のことについてはワークショップでも随分、いろいろ意見が出たので、それを踏まえていい外観にしていくというような回答でした。以上なのですけれども、我々の意見書はそれで、丸々、課長のほうから提出していただいたということです。それで今日、これを8-2に基づいて確認をしてきたのですけれども、我々の公運審としての確認事項としてはフリースペース、サロンみたいなものをつくる場合、やはりつくったはいいけれども人が来ないというのではしょうがないので、運用面を含め、理論的なフリースペースにしていく必要がある。それが1つ。それから職員と市民の交流ということがとても重要だけれども、そもそも職員のいる場所が市民から見えなくなっていると、なかなかそれも促進しにくいので、市民と職員が交流しやすいような職員のいる場所を何か設計する。その辺を考えていただきたい。これが2番目です。3番目としては公運審とか、恋ヶ窪公民館の関係者と図書館とか、福祉センター、生きがいセンターを使っている方々と一堂に会して情報交換をする場が必要だということですね。これが3番目。それから、建物に公民館ということの明示をするときには、恋ヶ窪公民館という固有名詞を出してもらいたい。これが4番目でしょうか。ということで、今日ここで資料8-2に基づいて、公運審として現在意見というか、

我々の考え方としては4つ、今出たということで、公民館としては受け止めていただけますか。

事務局：ご意見伺いましたので。

田中委員長：これからいろいろ協議する場において、そこを意識しながらやっていただくとありがたいです。長い時間かかって、すみませんでした。なかなか3人でいつもこれをやっているのですが、この全体の共有というのが結構難しいなと思いつつやっていたのですが、でも、たどたどしくなりましたけれども、そういうつもりでやらせてもらいました。ありがとうございます。それでは、次の協議内容にいいですか。

(2) 諮問について

田中委員長：これまで我々は2年間の任期のうち、半分ぐらいを恋ヶ窪公民館複合施設化の問題で費やしてきました。本来、諮問答申という形で我々が答申を出すわけなのですが、今の状況を踏まえると、諮問というのもやはり複合施設の問題に焦点を当てたほうがいいかなというのが、公民館長さんたちの見解であったということで、今日は諮問の案というか、ほぼこれでいくということだと思っておりますけれども、諮問の案が出ています。これを事務局からご説明をいただいてもいいですか。

事務局：資料8-3を御覧いただきたいのですが、前段で既に皆様いろいろなご意見いただいておりますけれども、今公運審の皆様にもさしご意見をいただきたいテーマ、こちらが資料にありますように、国分寺市現庁舎用地複合公共施設における公民館の運営のあり方についてということです。ハード面では少しずつ皆様の意見いただきながら進んでいるところではありますけれども、今まで1期から4期まで、それぞれテーマごとに答申いただいております。本当に今、市役所移転後の現庁舎用地の複合施設のあり方について声を出していかなくてはいけないということで、同時並行のような、スケジュールではありますけれども、ぜひとも皆様と公民館の運営のあり方、恋ヶ窪公民館が直面している課題とともに、市内5館ございますので、これからの公民館ということで、あえて恋ヶ窪と入っていないところではあるのですが、公民館の運営のあり方について、皆様からご意見をいただきたいと思っております。具体的なテーマはこれからの地域に根ざす公民館としての役割について。もう1つが複合施設内の他の施設との連携した事業展開について。この2点をテーマとしてご意見をいただきたいということで、市内5館館長からの諮問ということになります。答申をいただきたい時期、最終的な時期は令和7年の5月を予定しております。今は皆様、初めて見ていただくということで、内容をご確認いただきまして、改めて正式に各館長の押印したものを原本として、お渡ししたいと考えております。

田中委員長：ありがとうございます。今気づいたのですが、50年ですけど、今

もう60年になって。

事務局：恋ヶ窪はこちら10年後に生まれております。

田中委員長：そうしますと、諮問の事項1、2がありますけれども、(1)は公民館全体として、これから地域に根差すためにはどうしたらいいかというので、(2)が今回の具体的な複合化の問題という理解でいいですか。

事務局：はい。

田中委員長：地域に根差すという点では第1期の公運審で既に、地域づくりに貢献する公民館みたいな案を出していますけれども、そのときにそれまでの50年間の歴史を全部レビューして、こういう役割を果たしてきたというのに乗った上で、今後どうするかという提案になったわけですがけれども、今この時点でコミュニティ・スクールにもかなり国分寺市としては力を入れてきているし、国分寺学というのものもあるし、昨日、教育委員さんとの懇談の中でも出た話ですがけれども、そういうのも含め、地域の中での公民館の役割というのを、幅広く総合的に提案するというのでいいんでしょうかね。

事務局：そうです。恋ヶ窪含めて全体の公民館として。

田中委員長：2番目が複合化の問題で、これが結局、答申をつくるプロセスの中で、設計がいろいろ決まっていったり、出てくると思うので、その情報をいただきながらのことになると思うんですね。だから、我々が出す答申は令和7年の何月時点での情報に基づいた答申ですというのをかなり明確にしていかないと、答申が出た時点では実はもうこれはこう進んでいるというのものもあるかもしれないので、その辺、注意しながらですがけれども、常に最新の情報をもらいながら、複合化に向けて、よりよい複合化が進むための同時並行的な答申になるかなと思うのです。委員の皆様からご質問か何か。

委員：テーマとしては反対するわけではないのですが、スケジュール感として、一方で、令和6年度竣工で走っているわけですよ。令和7年5月の時点では恐らくある程度、もう決まっていますよね。そのときに、ある程度希望が通っていればいいのですがけれども、ほとんど通っていなかったときに、何かとんちんかんな答申になってしまうのではないかなというの

田中委員長：そうなのです。私もそれを気にしているのです。

委員：そのときに、もしとんちんかんになってしまうのが、もう変になってしまったけれど、そうなった上でどうしたらいいのかというのが検討できるような時間的余地があればいいのですがけれども、ありそうですか。

田中委員長：それが分からないのですがけれども、いつの時点でどう固まるのかというのによるのですがけれども、今の私のイメージは、委員が言われたことに関連して言えば、我々はそもそも教育長に出した意見書はまず根本的な意見ですよ。それからそれが実際の設計をする中で、どこまで取り入れられたかということを確認するというのが、答申の中の1つの最初の部分になると思いま

す。その上で、ここまでこう決まってしまったのなら、これを前提としたときの事前の策として何か。

委員：それがすごく重要になると思うんですね。それが、例えばもう1か月ぐらいしか時間がないと。それ、ちょっと中途半端になってしまうかなという。例えば、これは継続みたいな形でも可能なのですかね。そういうときは。

事務局：継続審査という。

委員：結局、あまり受け入れられなかったけれども、その中でもできる限りはこんなような形で運営をしていってほしいみたいな形の答申をつくりたいところですよ。そのときに1、2か月では、とてもではないけれども間に合わないと思うので、そうすると6月以降の公運審の継続テーマみたいな形で諮問をまたしてもらえるとありがたいと思うのですけれども。それは我々の期限との関係で難しいんですけど。

事務局：任期が2年ということで、皆さん、2年目にもう入っているわけなので。

委員：令和7年6月以降は別の任期になってしまうんですね。

事務局：委員の方のメンバーチェンジがあるかも分からない。

田中委員長：次期への送付。

事務局：送付はあるかと思えます。

田中委員長：ただ、これ一応諮問事項は我々が複合化に向けて、どういう複合化にすべきかという意見を出すというよりは、複合施設に入ったときに、恋ヶ窪公民館が他の施設とどういう連携をして事業をしていったらいいかという内容です。ただ、そうであっても、我々これだけ考えて提案してきたので、やはり答申の中には何らかの形で、我々が議論してきたことは盛り込みたいと思うのです。その上で、出来上がったときに他の施設とどういう連携をするのかというのを考えていくということになると思います。結構忙しいんですけども、例えば(1)だって、これ1つの答申としてかなりやろうと思えば相当で、2年間かけてやるテーマでもありますよね。(2)だって、やっぱり他の施設をまずは調査しなければいけないですよ。福祉センターって何かというところから勉強しなければ、どういう連携するか分からないので。このあたりちょっと時間との戦いもあるので、時間の範囲で我々が回数、何回打合せできるかの回数と、あとまたグループ化してやるかどうかも含め、相談しながらうまくやろうと思います。

委員：こういう諮問というのは2年に一度出でるのですか。毎年なのですか。

事務局：任期の期間中に一度諮問して、終わるまでに答申を出していただくというサイクルで、やっております。

委員：公民館としての役割とか、こういうことを我々一部が一生懸命考えるというよりも、公民館って要するに、公的というか、地域の皆さんのものですよ。そこが根本だと私は思うんですね。ですから、こういうようなことを具体的、具体化して、少なくとも公民館で活動している人がいるではないです

か。もとまちだったら30ぐらいですかね。ある、サークル。

事務局：もっとあります。

委員：もっとあります。上の人だったら、非常に意識的だと思うのですが、ここに集まってくる人たちって、ただ乗っかっている。要するに「貸館でも別にいいんじゃない」みたいに思っている人もすごく多いんですね。こういう問題を投げかける。例えば、アンケート形式などでも投げかけるというだけでも、ふっと意識、「あれっ、そうか」という感じで思うと思うんですよ。要するに、公民館っていうのは、地域みんなの人たちのものだよということを、少しでも意識させるためのアンケートであってもいいと思うんです。例えば、公開講座というものを1年にいっぺん各サークルで毎年結構やっているのは、詩吟、私のグループだけではないかなと思うぐらいに、公開講座、今のところは私も少し増やしたいと思うので権利としてやっているのですが、義務としてもやっぱり公開講座というのはやらなければいけないのではないかな。それが公民館で活動している人たちの義務でもあるのではないかなと、私なんか捉えているんですね。それは公民館で少し関わってきた5年ぐらいの間に、少しずつ私も考えを変えてきたことなのだと思います。そういうふうにアンケートをぶつける、少なくともそこにやっている人たちにぶつけてみたいなど、私は思っているんです。

田中委員長：とても重要なアイデアだと思います。

事務局：前期も必要に応じて、アンケートとか調査とか研修とか、いろいろな角度でテーマに関することをしておりますので、もし各館利用者の方の声を聞きたいという場合には、アンケートするという事は可能ではないかなと思います。

田中委員長：ありがとうございます。まず、(1)については、これまで第1期の公運審が大上段に、地域づくりをやりますので、それはまず共有しながらやったほうがいいかなと思うのと、あと2期、3期、4期、5期までいった。

事務局：今5期です。

田中委員長：今5期。じゃあ、2、3、4か。2、3、4で前期も、ある程度地域づくりも関係していますけれども、次回どうでしょうか。皆さんに一応これまでの答申を渡しているのですたっけ。あるいは。

事務局：少なくとも前回4期はお渡ししています。

鈴木委員長：前期の分は。その前もですよ。

田中委員長：例えば、第1期はそれこそテーマが地域づくりだったので、1期の答申は全員で共有して手に持ってスタートしなければいけないかなと思うのですが、それから2、3、4については地域との関係に関わりのあるところだけコピーして共有できるのか。それ、後で相談させてもらっていいですか。次回用意する資料を検討したいと思います。

事務局：よろしくお願ひします。

田中委員長：（１）についてはだから、これまでの答申で既にいろいろやっているのに、そういうことが必要かと思うのと、それから各公民館で地域に根差して、公民館事業全部が地域に根差していると思うのですけれども、この地域に根差すという視点から見たときの各公民館の現状の情報なんかを、用意していただくって可能ですか。館長さんたち。次回。６月空くので７月だから、ちょっとゆとりがあると思うのですけれども。後で調整していただいて、何らかの情報を出していただいて、スタートしたほうが良いような気がするのです。それが（１）で、（２）についてはそれぞれの相手方の施設の概況が、図書館はある程度イメージ分かりますけれども、ただ、これはもう恋ヶ窪に絞っていいのですかね、（２）は。

事務局：一番具体的に今、直面しているのに、恋ヶ窪中心に。

田中委員長：ですよね。複合化もいろいろなことがあり得るから、全部を想定するわけにはいかないのです。

事務局：そうですね。恋ヶ窪中心でよろしいと思います。また今後、ほかの施設も複合化していく計画が出てくるかもしれないのです。

田中委員長：今回で言えば、恋ヶ窪公民館の現状、規模とかいろいろなものと、図書館の条例と、それから現状の恋ヶ窪における図書館と公民館の交流というのを、これは館長さんかもしれないけれども、出していただくのと。あと、福祉センターと生きがいセンター、それから武道場とか何かについての、条例があったり、利用者の実態だったり、あるのを全部用意していただいて、まずは次回、そういう情報を共有するというのが大事ではないかなと思うのですけれども。

事務局：可能な範囲で資料を整理したいと思います。

田中委員長：また相談させてください。

委員：この諮問事項というのは、これは変更できないのですか。

事務局：今この案と言いますか、この諮問の内容については、既に教育長と部長と話をしております、これでいこうということになっております。

委員：我々が諮問される側なので、とやかく言えないと思うのですけれども、大きい感じがするんですね。もう少し具体的に落としてもらったほうが我々はやりやすいなど。今、田中委員長が言われた、そういう範囲をちょっと狭めていただけだったので、その範囲でやればいいのかと思うのですけれども、諮問そのものも、委員長が言われたような、もう少し具体的に落としていただいた諮問のほうが分かりやすいな、回答しやすいと思うので、今回はもう変更できないということであれば、今、委員長が言われた解釈で我々は回答をしますよということできせいでいただければ、同じことだとは思っているのですけれども。

委員：サブタイトルをつけて。

事務局：諮問する側で申し訳ないのですけれども、もともとのテーマが新しい複合

施設のあり方です。その上で（１）というのは外向け、地域という外向け。あの新しい施設で外向けにどうするかということです。なので、別に全部のことを改めて地域に根差すかという大上段ではなくて、１期から４期まで積み重なったものがありますので、その積み重なったものをもとに、今度は、現庁舎用地の複合施設で、どうそれを続けていくのかというところが（１）。

（２）については地域に根差す公民館として、役割を常に把握していくために各課の施設と、どう連携していくのかということになるだろうと思います。大きい話ではなくて、お話ししたように、ぎゅっとできる範囲にはなっています。

委員：独立した２つのテーマではないのですね。

事務局：そういうことです。あくまでも一番上の諮問事項ありきの中の（１）（２）なので。

田中委員長：分かりました。今言われたように（１）は対外、（２）は対内というか、そんなことで、具体的には恋ヶ窪公民館が複合施設の中でどういう役割を果たしていくかということですね。次回、それに必要な基礎情報をそろえていただいて、まず我々は、次回はそれを勉強するというのでいきましょうか。委員が言われたアンケートというのが、そういう中で、有効そうだというのであれば、考えてもいいですし、そのあたりその場で検討していく。そういう基礎情報を我々勉強する中で、答申のつくり方、チーム分けするかどうかとか、どの辺に視点を当てながらいくかということを考えてということにしましょう。ありがとうございました。では諮問についてはそういうことでよろしいですか。

（３）令和５年度第２次国分寺市教育ビジョンに基づく主要施策の点検及び評価に対する市民からの意見聴取について

田中委員長：では続きまして、協議の（３）事務局のほうからよろしいですか。

事務局：資料８－４。令和５年度の第２次国分寺市教育ビジョンに基づく主要施策の点検及び評価というようなことで、教育委員会のほうで各課テーマを設けて、事業を行っているというところで、令和５年度のまとめがこちらの資料にございます。８－４。そして資料８－５ですね。これがテーマではありません。それぞれ公民館に関係するところ、セルが小さいですけれども、４番目が令和５年度に行った事業を、それぞれテーマに当てはまるところに書いてございます。例えば資料８－４の頭のページのところでは公民館がどれだけの事業を行ったか。主だった事業名を当てさせていただきながら、様々な方にご参加いただいたのですよというようなことで、コロナの時期に休館をせざるを得なかった時期がありますので、一時利用者の皆様の数字としては激減したのですけれども、徐々に回復してきているというようなことを数字で見えております。また、いろいろな事業をしている中で、皆さんのニーズに合

った講座事業を企画している。その中でも防災・防犯は必ずどいずれかの公民館で毎年やっていますというようなことであったり、地域性を生かした事業、特に並木公民館では周りに農地が豊かにございますので、農業体験を企画して、計画しておりますし、また、もとまちのほうは住宅街ですけども、四中生や学芸大の学生だったり、いろいろな方との企画で講座をしてみようということで、特に四中生が企画した講座、「おはなし、お菓子をつくろう」というのは、皆さんのよく知っている有名な絵本の中でつくられたお菓子をつくってみようみたいなことを実際にやってみて、いろいろな世代の方に体験していただいたりといったこと、そんなことをやったというような経過を書いていたりします。また、いろいろな講座で次のあたり、43、44ページで、モバイルルーターですね、貸出しをしております。G I G Aスクール用に始めたのですが、一般の公民館の利用者にも使ってもらえるように、モバイルルーターの貸出しを始めておりますし、オンラインで会議や講座をするようになりましたというようなこと。また、いろいろな世代の方々とともに、外国にルーツを持つ方々への講座、または障害を持った方への講座、いろいろなことをしております。実績を令和5年度のところにいろいろ書かせてもらっております。おまつりも、ようやくコロナ前に近づいてきたかなというところで、できておりますということで、ここで皆様に何かの感想とか会見とかいただけたらありがたいなということで、今日出させていただきます。グループの方の公開事業とか、利用者の方が講師になって講座をやったとか、公民館、本当に様々な事業をさせてもらっているので、5年度どうだったかと振り返り、ご意見いただけたらありがたいなと思っております。

田中委員長：ありがとうございます。これ、タイトルが「市民からの意見聴取」となっていますけれども、パブリックコメントみたいな形で、一般市民の方からの意見を今、集めているのですか。

事務局：今回これは評価ですので、各課で関係団体からご意見を言ってくださいというようなことになっています。

田中委員長：分かりました。それでは、非常に細かい資料で全体なのであれですけども、前は第3次のビジョンについていろいろ意見を聞きましたけれど、今回は第2次のほうの点検評価のところですね。今までの、ですからご経験の中で、この事業がこうだったとか、ああだったとか、今、事務局からお話があった範囲でも結構ですけども、何か思い当たることはありますか。

鈴木副委員長：思いついたことでいいですか。44ページ、オンラインのこと。モバイルルーターのところですね。館によっては、オンラインでやるときに、例えば恋ヶ窪公民館の場合は、なかなかオンラインができない。機器が。空いていれば「それ使えるよ」と。本多の場合は日常的に言ってきますよね。ルーターはあるのですが、Z o o mでやったりするときに。

事務局：Zoomセットですか。

鈴木副委員長：そうそう。

事務局：Zoomセットを借りるのが大変なのですよ、私たち。

鈴木副委員長：空いていないときが。そういうものをもっと充実、あれ。……意見でもいいですか。

事務局：そういう意見、ありがたいです。

鈴木副委員長：あれは本当にいいのですよ。大活躍で、私、本多公民館利用させていただいて、それが使えないということは1回あったのです。それは何かというと、モバイルルーターの具合が悪かった。予算の関係でどうだとかと言われていましたか、年度末でしたかね。だから、それをもうちょっと使いやすくて、よく分かりませんが、モバイルルーターがいつでもちゃんと使える予算配置というのでしょうか。予算の拡充、機器点検。日常的にやってほしい。それから一番初めの頃、私この公運審の委員になったときは、「なぜモバイルルーターなの？」というふうに、ちょっと反対意見だったのですが、セキュリティから考えたら、モバイルルーターのほうがいいのです。国分寺のFreeWi-Fi、あれは駄目です。

事務局：ここに入っています。

鈴木副委員長：駄目。あれは危ないです。時間がたつと使えなくなるし、また、入れ直し。モバイルルーターはずっと使えます、その時間。

事務局：上限まで。

鈴木副委員長：はい。それ、いいです。という意見です。些末なことですけど。

田中委員長：あと、ほかに何かありますか。これはいつまでに。

事務局：終わってからでもメール等で何かありましたら、事務局まで送っていただければありがたいです。

田中委員長：例えば議事録の締切りの6月7日とか、あるいはもっと早く、1週間以内とか。

事務局：1週間以内でいただければありがたいです。

田中委員長：何かありましたら、1週間以内にいろいろと振り返りながら、ご意見をいただければありがたいです。

委員：この資料8-4で、いただかなくてもPDFか何かでいただいたりできますか。

事務局：お送りできると思います。拡大して見ていただければ。

田中委員長：委員の全体に送っていただけますか。

事務局：はい。そうですね。ちょっと文字が小さくて申し訳ありません。

委員：説明があったのかもしれないのですけれども、これは何に使うための意見聴取なのですか。

事務局：これは5年度の事業評価です。公民館の事業がどうであったか。様々なテーマに基づいてどうであったかということの評価いたします。そのためのも

のに使います。

委員：事業評価に使うための意見聴取がこんな感じで聞かれてしまうのですか。

事務局：自分たちでも数字で評価していくのですけれども、プラスアルファ関係の方々の意見も伺うということになっています。

委員：すごく責任が重大な割にはどうコメントしていいか悩ましいですけれども。

田中委員長：何かあればどんどんおっしゃっていただいて、課のほうでそれは整理してもらおうというので、どうでしょうか。それでは、今4時なのですけれども、あと、その他が若干あるので最大4時10分まで。もし、ご予定がある方はお帰りになっても結構です。

委員：1点、全部終わってしまってからあれだったのですけれども、サポート会議の委員長の打合せを、日程を決めたいというのがあって。あのとき副委員長のほうから今日やったらどうですかというのがあって、今日は来ていただいて。

鈴木副委員長：終わり次第。

委員：やるんですか。

鈴木副委員長：やります。

委員：案内は来ていなかったけれども。

鈴木副委員長：あれで済んだと思ったのですけれども、私は。ほかに連絡する手立てありませんと、前回のお話で。とにかく今回は顔合せだけでもやりましょう。次回どうするかということ。

委員：10分以降、やるのですね。

鈴木副委員長：もちろん。田中先生は関係ありません。

田中委員長：よろしいですか。次にいきます。

4 その他

田中委員長：ではその他、お願いします。

事務局：今回都公連の委員部会があったと思いますので、坂本委員のほうからご報告をお願いいたします。

委員：皆さん、お疲れだと思いますので簡潔に。国分寺市の公民館の運営審議会と関係して、都の公民館連絡協議会というのに、私が窓口ということで参加させていただいています。直近ですと4月25日に今年度第1回の会合がありました。1日戻るのですけれども、4月24日には前期の総会、定期の総会、年次総会がありまして、それは小金井の市民ホールであったのですけれども、そちらにも参加させていただきました。総会のほうは通常どおり、事業報告とそれから決算報告とありまして、併せて東京都公民館連絡協議会の歴史と課題という、簡単な資料が配布されて、伊東静一さんという方ですかね。東京都公民館連絡協議会の顧問をされている方が30分ほど、都公連の歴史と課題ということでお話をされました。大変興味深いお話もありましたので、も

しご興味ある方はこの資料を御覧いただけたらと思います。今年度第1回の都公連の定例会に関しては、今年度は持ち回りで幹事が決まっているようで、西東京市の公運審の方が幹事になられて、西東京市をはじめ、何回かお話ししたと思うのですけれども、西東京市を含めて今は全9市ですね。福生、国分寺、狛江、東大和、昭島、小金井、小平、国立ということで9市がこの会合に参加しています。初回でしたので、それこそ、それぞれの自己紹介から始まりまして、メンバーが一部変わっているところがありましたので。それから都公連の活動方針ということで7件ほど発表があったりしまして、非常にきちっとした形で計画されているなということ改めて思ったのですけれども、今年度の会合については、次回は6月27日です。西東京市が幹事なので、西武柳沢まで行かなければいけなくてちょっと大変なのですけれども、柳沢の公民館で毎回開催されるということで、初回も含めて年間で9回開催される予定になっています。その9回の中には10月に研修会、それから来年2月、研究発表大会みたいなものも計画されているということです。最後に1つ。私が、集まった皆さんで各市の公民館だよりというのがお互いに配るのですよね。どんな公民館だよりを発行されているかということを一言ずつ皆さんが話されるのですけれども、大変これ自体も興味深かったのですけれども、東大和の公運審の方が紹介された公運審のハンドブックというのがあるらしいです。非常にガッチリ厚い内容でして、公運審のメンバーの方の組織的なポジションはどうなっているとか、役割というのはこういうものですか、それからこれまでにやってきた取組というのはこういうことですか、非常に東大和の資料でハンドブックみたいなものができていたので、資料あるのかなみたいなこと思ったのですけれども、こういうものがもし機会があれば、きちっと決まれば、またメンバー変わって、変わった中で公運審の方の役割というのが明確に継続されていくのではないかなみたいなことも思いまして、非常に他市の資料というのが参考になりましたので、また今後とも随時ご紹介させていただきたいと思いますので、ご興味あるいはご質問などあれば、言っていただければと思います。よろしく願いいたします。

田中委員長：ありがとうございます。私も小平でも何か……。国分寺はないのですよね。こちら、持っていないということは。今度、1回つくってもいいかもしれません。こういうのを参考にして。今後の課題ということで。ありがとうございます。何かご質問などはありますか。よろしいですか。では、その他として副委員長のほうから問題提起がありまして、10月の会合のご都合が。

鈴木副委員長：申し訳ありません。10月の定例会。

田中委員長：もし変更が可能なら、今日欠席の方がいらっしゃるので、事務局から確認をできるのであればお願いしたのですけれども、今、予定は10月25日の金曜日なので。それが例えば10月18日の金曜日で大丈夫かどうかという

ことですけれども。

委員：こっちは公民館祭りの真っ最中で……。

鈴木副委員長：18日は駄目ですね。可能な日はいつですか。私抜きでやっていただいてもいいのですけれども。

田中委員長：まずどうしましょうかね。欠席の方もいらっしゃるから、あとでメールでの確認。

事務局：10月中については変更できるかどうかというところ。

田中委員長：難しいようなら副委員長……になりますけれど。可能ならば。

事務局：基本、金曜日でよろしいでしょうか。

田中委員長：そうですね。曜日もずらすと皆さんそれぞれの予定が。

事務局：金曜日の中でずらせるかどうか。

田中委員長：調整お願いします。皆さん、また事務局から連絡がいきますので。それでは以上で終わりにしたいと思うのですけれども、事務局から何か。

事務局：最後次回の日程の確認をいたします。次回は7月26日金曜日午後2時から4時の間で、本多公民館この講座室で行いますので、どうぞよろしく願いいたします。

田中委員長：では長い間、お疲れさまでした。ありがとうございました。

——了——